

帝京大学大学院

文学研究科 史学・文化遺産学専攻

「人間とは何か」を探求すること

「人間とは何か」、この永遠の問題を問いつめていくのが文学研究科です。文学研究科には3つの専攻（日本文化、史学・文化遺産学、心理学）が存在していますが、それは、この「人間とは何か」という問題探求の頂上を極めるためのいわば山の登り道が違うだけなのです。究極的に求めるものは同じだということを忘れないでください。

こうした人間存在を探求していく学問のことをヒューマニティーズ＝人文学といいます。実は西欧で大学ができ上がった時、すべての学問の基礎は人文学にありました。その後、その分野も、哲学・歴史学・文学などに分かれていきましたが、根は1つの人文学だったのです。

もちろん現在学問は様々に分化しており、本学にも多くの専門的学問が存在し、人文学を行う文学研究科自体にも3つの専攻が発達していますが、それらの基礎には、人間探求という課題が存在しているのです。ですから、文学研究科で学ぶ学生は、「人間とは何か」という永遠の問題を扱うという自負心と使命感を持って学んでもらいたいと思います。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

文学研究科は、専攻する広範で多様な学問領域において高度の専門的知識や実践的技能を獲得し、複雑で多様化する諸課題を究明・解決できる能力を持つ人材の育成を目指しています。

文学研究科では、国際的な視野に立った高度な理論・方法、そして実践的技能の修得が求められます。このため学部等において、自らの関心を十分に掘り下げる洞察力と、各領域の知識および方法論を身につけることが重要となります。

学部等における上記のような学修を通じて、次のような能力・資質を備えた入学者を求めています。

1. 各専攻が求める高度の専門的知識や実践的技能に関わる基礎的知識を有する。
2. 明確な研究目的を持って複雑で多様な諸課題を積極的に発見し、探求する意欲がある。
3. 各領域における研究の方法論を熟知し、多面的視点で研究を遂行していくことができる。

専攻紹介

史学と文化遺産学を融合させた最先端の学問領域を創造。

歴史学の世界においても、縦割りだった学問領域の垣根が取り払われ、めざましい変革が起こっています。史学・文化遺産学専攻はその流れを踏まえ、時代の先端を走る高度な研究・教育を実践します。帝京大学には、長年にわたり蓄積してきた歴史・考古学資料、美術資料が揃っています。こういった環境のなかで史学と文化遺産学、さらには大学と研究所を融合させることで、今までの大学や大学院にはなかった新たな学問領域が誕生し、さらに今後もその形は柔軟に進化し続けるでしょう。輝かしい才能に出会えることを大いに楽しみにしております。



文学研究科長 専攻主任 教授・文学修士

阿部 朝衛 Asaei Abe

東北大学文学部卒業、同大学大学院修士課程修了、1984年同大学大学院博士課程単位取得退学、1984年法政大学助手、1986年帝京大学非常勤講師、1988年帝京大学専任講師、1991年同大学助教授、2008年同大学教授、2015年より同大学史学科長・大学院専攻主任。2024年より同大文学部長・文学研究科長。

授与学位

※募集人員・入試日程などについては大学ホームページ掲載の「入学試験要項2027」をご覧ください。

課程・修業年限	授与学位	学位論文	必修科目	選択科目	修了に必要な単位数
博士前期課程・2年	修士(文学)	○	12単位	18単位	30単位
博士後期課程・3年	博士(文学)	○		12単位	12単位

過去の論文テーマ

- 武蔵国足立郡における大名・国衆と地元武士団
— 岩付太田氏・後北条氏と鴻巣七騎 —
- 永祿期における正木氏の香取郡侵攻とその影響
— 東総地域の千葉氏家中を中心に —
- 縄文中期後葉曾利式土器の地域性と型式情報の選択性
- 岡倉天心評価の変遷とその背景
- 東京大空襲における平和記念館設立運動について
— 「東京大空襲を記録する会」を中心に —
- 小田氏治期の対外関係と支配領域の変遷について
- 近代日本画とエジプト — 速水御舟・杉山寧を中心に —
- 泰衡の敗因 — 文治年間における奥州藤原氏の武家の性格 —
- 旧多摩聖蹟記念館とドイツ表現主義 — 蔵田周忠の建築思想とともに —
- 15世紀末イタリア美術における巨匠の誕生とその背景
- 木谷千種作《針供養》の一考察 — 近代大阪における女性画家を中心に —
- 山田七五郎論
— 横浜市の建築と1925年パリ万国装飾博覧会日本出品住宅を中心に —
- 大正から昭和初期における化粧品グラフィック・デザインと西洋的表現の摂取
— 資生堂時代を中心とした沢令花とその「創作主義」をめぐって —

史学・文化遺産学専攻の概要



グローバルな視点を養うカリキュラム

近年は世界のどの地域の歴史を学ぶにしてもグローバルな視点が求められます。ユーラシア大陸・アメリカ大陸などの広大な領域をカバーする科目や、地域間の比較によって広範な視点を養える科目によって史学・文化遺産学を大局的に深く学ぶことができます。

帝京大学文化財研究所*の活用

本学の研究施設である帝京大学文化財研究所(山梨県笛吹市)は、考古学、シルクロード史学、文化財科学等の調査研究活動を展開。多分野の専門家が集う研究所として関連各学会から、全国的に高い評価を得ています。本研究所の持つ高度な専門性、大きな研究資源を大学院教育に導入することで、特徴的な研究に貢献しています。

学際的、文理融合を含めた学融合の推進

帝京大学文化財研究所は考古学、シルクロード史学など文系の分野に加え、物質資料(考古遺物・文化財等)の自然科学的分析に関する専門の研究スタッフを置くことで、理系の側面を強化しています。こういった文理融合はもちろんのこと、教育や研究を分断された専門性に押し込めるのではなく、学融合をめざす専攻としての役割を強く意識して学生の指導を進めます。

研究し発表する力を醸成

学位論文作成に向け、各院生が最先端の研究と問題点の克服ができるよう、指導教員と院生が定期的に面談し親密な指導を行う『総合研究』を必修科目に設けています。また、自己の研究から独創的な部分を抽出し迅速な発表をすることは、研究能力と同じくらい重要です。そのため、研究成果を学会誌など全国的な場に公表するための指導も行います。

帝京大学文化財研究所

山梨県笛吹市に設立された本研究所は、考古学、シルクロード史学、文化財科学などの調査研究活動を展開する帝京大学独自の研究施設です。院生のうちから貴重で多彩な研究資源、そして高い専門性に触れられることは、本専攻の大きな特徴となっています。

■国内外の豊富な研究資料、大ホールでは講演会も

国内の研究報告書から中央アジアの文献が揃った図書室や、180名を収容できる大ホールがあり、各種講演会などにも利用されています。

■金属製品のクリーニング(保存修復室)

保存修復室では主に金属製品の修復作業を行います。実体顕微鏡を利用して、対象物を立体的に観察しながら作業を行います。



■高度な専門研究施設

保存修復室のほかにも、木製品・紙・繊維などの有機物の保存処理を行う有機物処理室や物質の構成元素を測定する蛍光X線分析装置・誘導結合プラズマ発光分光分析装置などを備えた機器分析室があり、最新機器を用いた高度な研究を実施するとともに、学生や外国人専門家への研修が行われています。

■研究所に隣接した長期滞在可能な宿泊施設

研究所には2棟の宿泊施設があり、男女それぞれ16名まで利用可能です。宿泊費も格安ですので、長期の滞在もしやすいです。



主要科目一覧

- 史学・文化遺産学方法論I・II
- 総合研究I・II・III・IV
- 比較地域学方法論I・II
- 多摩地域学序説
- 日本古代中世史研究
- 日本近世近代史研究

- 日本現代史研究
- 日本古代資料学演習
- 日本古文書学演習
- 日本近現代史料論演習
- 美術史研究
- 美術史演習

- 日本考古学研究
- 考古学総合研究
- 文化遺産学I・II
- 日本考古学演習
- 考古学総合演習
- 文化遺産学演習

- 考古学総合実習
- 文化遺産学実習
- 地理学研究
- 民俗学研究
- 東洋史研究
- 西洋史研究

- 比較思想史論
- 日本思想史演習
- 東洋史演習
- 西洋史演習
- 地理学演習

帝京大学入学金減免制度

帝京大学の卒業生および2027年3月卒業見込みの学生を対象に入学金を全額免除する制度です。

対象者

● 帝京大学卒業生または卒業見込みの者

減免額

● 入学金:全額免除

※出願の際は必ず「入学試験要項2027」またはホームページをご確認ください。



帝京大学
八王子キャンパス

〒192-0395 東京都八王子市大塚359
<https://www.teikyo-u.ac.jp/>

※このチラシに記載されている内容は2026年度に実施予定のもので、2027年4月以降に変更する可能性があります。

▶ 問い合わせ先

入学試験について
本部入試室 入試企画室
TEL: 042-678-3317

授業内容等について
教務課
TEL: 042-678-3301

奨学金について
学生支援課 学生支援室
TEL: 042-678-3310

資料請求について
インターネットによるお申し込み
<https://www.teikyo-u.ac.jp/documents/>



窓口時間: 月曜～金曜 8:45～16:45 土曜 8:45～12:00 ※祝日・年末年始(12/29～1/3) および1/16を除く